



RI 会長：シェカール・メータ  
2620 地区ガバナー：小林 聡一郎  
会長：妻鹿 政光 幹事：齋藤 高子 会場監督：佐々木 雄二  
例会：毎週金曜日 19:00 ~ 20:00

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006  
E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2021年7月30日(金) 晴 第1564回例会 週報 NO. 3

司会：竹内公一 会場監督補佐  
点鐘：妻鹿 政光 会長  
ロータリーソング「R-O-T-A-R-Y」

ゲスト

RI 第 2620 地区ガバナー  
小林 聡一郎様  
同 地区副幹事  
齋藤 嗣樹様  
静岡第 5 グループガバナー補佐  
石津 匡美様

会長挨拶



本日は小林聡一郎ガバナー、齋藤嗣樹地区副幹事一私と同級生でした。石津匡美第 5 グループガバナー補佐をお迎えしての例会となります。小林ガバナーのプロフィールは後ほど SA からご紹介いたします。連日のロータリー活動で大変お忙しい中お越しいただき、御礼申し上げます。

先ほど、小林ガバナーとの会長幹事会が開かれました。これからのロータリークラブの在り方、効果的なクラブ運営についてなどのクオリティの高い有意義なアドバイスをいただきました。

この後小林ガバナーからのお話があります。3年後、5年後のことを考えながら、皆さんと共に強いクラブを作っていきたいと思えます。

幹事報告



・8月の例会スケジュールが変わっています。次週 6 日は元会員で市議会議員の関さんの卓話、13 日はお休みです。20 日は予定通り、22 日の家族会は中止になり、27 日は通常例会になりました。  
・第 2680 地区から会員増強についての冊子が届いています。ルームにありますので、ご覧ください。  
・次週例会後理事会があります。

委員会報告

☆佐藤芳一 親睦活動委員長  
幹事からも報告がありました。8月22日の家族会はコロナのために中止に致します。代わりに8月27日にクイズ例会をやります。ロータリーの歴史から出題しますのでネットなどで予習をしてきてください。豪華賞品も出ます。



スマイル

♪妻鹿政光さん、齋藤高子さん  
本日は国際ロータリー第 2620 地

区小林ガバナー、齋藤地区副幹事、石津ガバナー補佐、ようこそ浜松中 RC にお越しくださいました。どうぞ宜しくお願い致します。



ガバナー公式訪問

ガバナー紹介：竹内公一さん

ロータリーの友 7 月号に多趣味なガバナーとして紹介されていますので、後ほど御読みください。

所属は甲府北 RC、早稲田大学第一文学部史学科をご卒業し、現職は(株)ビーイングコーポレーション代表取締役、1991 年に甲府北 RC に入会、1992 年甲府城北 RC に移籍され、2001 年同クラブ会長、その後甲府北 RC に再度移籍し、2017-2018 年度会長、その間ロータリーの友委員会や地区 R 財団委員会などでも活躍されています。

《小林ガバナーご挨拶》



私の顔がわかるように一度マスクをはずします。このところコロナの感染が危険なレベルに達して

きています。そんな中で例会を開いて頂き、ありがとうございます。これから先、クラブの運営も大変になって来ることもあるかと思いますが、皆さんの知恵を集めながら上手に運営して頂けたらありがたいと思います。

こうして、皆さんの顔を見て話をさせて頂くのは多分、年に1回だけです。地区には77クラブあり、合同例会もありますので50回くらいのクラブ訪問をします。50回も同じことを話すのは嫌だと思い、いくつかの10分の話を用意して、その3つを組み合わせ話をしようと考えていました。例えば、「国家の品格」という本を書いた数学者の藤原正彦さんの話。彼はその本の中で「論理は危ない」と言っています。最初の前提をしっかりと考えないと「風が吹けば桶屋が儲かる」ように結論が変わって来てしまいます。奉仕も同じで、最初の所をしっかりと考えないと、一見筋が通っているようでも最後まで間違えてしまいます。

また、ロータリーは常に相対的に考えないといけない。利己と利他、どちらか一つだけでは間違えけれど、相対的に考えるとロータリーもわかってくる。これは小堀憲助さんというロータリアンで英米法の研究をしている方が言っています。こんなことをお話ししながら、皆さんとロータリーを考えようと思っていました。

ところが、ガバナーになって3日目、熱海の土石流です。その日私たちは甲府で諮問委員会を開いていました。そうしたら、私のスマホに「お見舞い申し上げます」というメールがいっぱい入ってきました。同期のガバナーからで、彼らとはノミニーの時に神戸のロータリー研究会で会って以来、リアルに会うことはありませんが、ずっとLINEで繋がってきました。何かと思って調べたら、熱海の土石流でした。次の日には応援メールがいっぱい来ました。被害の情報収集をし、地区の災害支援本部を立ち上げ、5日月曜日にやっと募金のための口座も開設できました。そしてそれをガバナー会を通じて全国のガバナーに発信をしました。

翌日6日から金曜日までに1000万円、13日までに2300万円の募金が集まりました。ロータリーの組織はすごいと思いました。人々の善意を形にすることはこういうことなのだと思えました。私たちがの地区でお金をもらうのは初めての経験です。お金の多い少ないではなく、善意という気持ち。それを受ける側になって初めて感じました。

1920年日本にロータリーを作って、その3年後、関東大震災がありました。日本の首都壊滅というニュースが世界に流れます。すかさずRIからお見舞いの電報がきます。そして、アメリカ、イギリス、カナダなど17カ国から大変なお金が来しました。お金は震災孤児の家や学用品などに使われました。それまで、日本のロータリークラブは月1回しか例会をしていませんでしたが、その経験からロータリーの組織のすごさを感じ、しっかりした運営をするようになったそうです。受ける側になって初めて、自覚が生まれました。

今回はそのミニ版ですが、私は全国からの善意をいただきました。形はガバナーとガバナーのやり取りですが、向こうのガバナーの後ろには8万人の会員がいて、私たちの地区2800人が受け取ったのです。これは熱海のことでだけでなく、私たち一人ひとりが受け取ったのだと考えて頂きたいし、このことを話さないと私の公式訪問は始まらないと思いました。

実際に熱海のクラブの会員にも被害を受けられた方がいます。熱海の1日も早い復興を祈っています。7月28日現在、地区内の合計が2890万円。これをどのように使わせて頂るか検討したいと思います。

このことで「10分の話」はできなくなったので、パワーポイントでRI会長のメッセージをしっかりと伝えたいと思います。

山梨の地方紙に、今まで私たちは財力を豊かさの基準にしていた。これからは形のない豊かさにシフトしていく。持続可能な開発目標、私たちの豊かさが次世代に負担をかけてはいけない。そのような話が載っていました。多様性、公平、包摂性(DEI)という概念がこれからたくさん発信されてくると思います。

新しい幸福を追求していく過程、これはロータリーも同じです。新しい時代を生きるロータリー。これが端的に表れたのが、昨年4月のRI理事会です。コロナの第1派でステイホームをしてきて、いかなるロータリーの会合も必須としないと決めました。これによって、ロータリーは一気にデジタルに変わってきました。昨年のクナーク会長は一度もドイツを出なかったそうです。私たちガバナーエレクトは、2020年8月、いつもより半年早くシェカールさんの話を聞くことができました。2620地区はオンラインでRLIを実行しています。

## 共存の中にこそ自分を生かす道がある

私たちはクラブをかけがいのない場と思い、例会を友愛や学びの場として尊く思ってきました。そして互いを思いやりながら、心を地域や世界に向けて視野を広げ、活動を広げてきました。日本的な感性でそのようなロータリーを形成し発展させてきたのだと思いますが、日本という風土に見事に適合したロータリーだと思います。

一方世界的には、奉仕活動を主体にロータリーを考える傾向にあり、ロータリー財団のポリオ根絶を始めとする取り組みのように、より多くの会員でより大きな奉仕活動を目指すことになります。実際世界では、それだけ多くのニーズが存在し、ロータリアンの支援を必要としていることも現実です。

ロータリーには最高絶対の単一概念が存在しません。常に「奉仕と親睦」「利己と利他」のように相対的に考えることを要求されますので、一つに決めつけるのではなく、日本的感性のロータリーと奉仕活動の世界のロータリーとを、どのように考えるのかということになります。

でもこれは今の私たちにとっては、相反することではありません。どちらか一方のロータリーしかないのではなく、その両方のバランスを上手にとりながらクラブに軸足を置いて、地域や世界で奉仕活動をしているという姿ではないでしょうか。当然クラブや例会を自己研鑽の機会と捉えてもいるでしょうし、人格形成の場ともしているでしょ



う。そしてそういう自分を他者のために活かすことも大きな使命と思っているのだと思います。一人では生きられない共存の中にこそ自分を生かす道があるということだと思います。

### RI 会長テーマ「SERVE TO CHANGE LIVES」

今年度のシェカール・メータ RI 会長はテーマに「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう—みんなの人生を豊かにするために」を掲げられました。そしてキーワードは「GROW MORE DO MORE」で、若い世代と女性をロータリーに迎え入れて会員基盤を強くし、人々の人生が豊かになるよう奉仕活動をお願いします、と要請されました。世界的なニーズに応えるロータリーの傾向に合致した年度テーマだと思います。

地区においてクラブにおいてこの要請をどのように具現化するかということで、会員基盤の強化については私なりの取組方策を提示させていただき、ロータリー奉仕デーについては各クラブに計画・実施していただくことにしております。会長始め会員皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### Online で新たなつながりを

ワクチン接種が進んでいるとはいえコロナ禍で視界不良のクラブ運営になりますのでご苦労されると思いますが、クラブに軸足を置いた例会と奉仕活動のバランスを上手にとって、会員相互の連携を強め、地域や世界で奉仕活動をしてくださるようお願いいたします。

コロナ禍を経験した私たちは、online での新たな繋がり方を手に入れました。Online 開催の地区 RLI は何回もの実績を礎として、全国的にもトップクラスと高評価されていますし、各クラブにおいてもハイブリット例会やonline 例会なども行われています。窮屈で不自由なコロナ禍でも人と人との繋がりには有効な方法ですので活用いただきたいと思います。

### ロータリー未来形成 (Shaping Rotary's Future)

今年初めに RI は「未来形成 (SRF)」という新たなプラン概要を提示しました。主には 2030 年から始める管理方法改革のためのプランで、2022 年 4 月の規定審議会での審議対象になると言われています。現在分っているのはここまです。これから提示に対しての意見を取り入れながら形成されていくことです。具体的などのようなものになるのかは現状でははっきりしません。しかしこのようなロータリーの未来に向けての取り組みが始まっていることだけのご承知置きたいと思っています。今年度これがどのように動き、地区としてどのように対処していくのかも手探り状態ですが、将来の地区にとって不利にならないような検討だけはしていかなければならないと思っています。

クラブ会長、幹事を始め、会員の皆さまと一緒に、本年度の第 2620 地区が「GROW MORE DO MORE」出来ますよう、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



\*\*\* \*\*  
今週の担当者



竹内公一さん

### 小林ガバナーとの会長幹事会

会場：エグゼクティブ

出席：小林聡一郎 ガバナー

齋藤嗣樹 地区副幹事

石津匡美 第5グループ

G 補佐

妻鹿政光 会長

齋藤高子 幹事

山城一哲 会長エレクト

栗原伸夫 副幹事

